

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 3 月 31 日

事業所名 につきり相談室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用児童の特性と活動内容を考慮して、適切な空間を設定し提供している
	2	職員の配置数は適切である	○		保育士・作業療法士・臨床心理士・臨床発達心理士・公認心理士・介護福祉士他、全員が有資格。配置基準以上に配置している
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子どもの特性に配慮した環境を設定。玩具のコーナーごとに区分けし、子どもたちが落ち着いて自由に過ごせる居場所を提供している。毎日の玩具・室内外の備品の清掃・除菌・消毒等の感染症対策を実施。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		玩具・絵本・ぬいぐるみ・室内備品等、朝1回、療育終了後3回、夕方1回、殺菌・消毒を行い衛生面の環境保持に努めている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の振り返り・月まとめ等、個別の案件についての振り返りを行い、目標の設定を行っている
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者アンケート調査の結果を踏まえ、業務改善に向けた取り組みを行っている。また、保護者様自己評価・事業所の自己評価等をホームページ上に公表している
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所向け自己評価を行う事で、風通しの良い事業所作りに努めており、ホームページに毎年事業所自己評価・保護者様自己評価を公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在、第三者評価は受審していない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内研修の他、行政や関連事業の研修をオンライン受講し職員の共通理解を深め実践に役立っている
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者様からの事前のアセスメントをもとに、情報の共有を図り、個別支援計画書の作成に役立っている
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		【気づきのためのチェックリスト】幼児用を導入し、個々の児童の状態を把握し支援に活用していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		日々の支援やモニタリングを通して、保護者の方からのご意見やご要望を伺い、児童発達支援ガイドラインにもとづいて計画を作成するよう努めている。必要に応じて、具体的な支援内容については、口頭で説明し、ご理解を頂いている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		視覚的に支援が必要な子どもには、絵カードなどを使用。先の見通しを持たせるために、1日の流れカード等を活用
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		子どもの状況把握や課題分析を行うことで、一人ひとりが支援の内容を考えられ、意見交換しながら計画書の作成を実施
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの特性や年齢に合わせて行っている
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々の子どもの状態や家庭の状況に応じて適切に対応を行う	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員ミーティングで情報の共有を図っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に、その日に関わった職員で振り返りを行っている。サービス提供記録(保護者へお渡しする記録)の他に、個別記録経過表を作成し、一人ひとりの子どもの状況を時系列で記録するようにしている。そうすることで、こちらの支援方法と子どもの様子を振り返り、上手くいく内容、上手くいかない内容等を分析・共有し次の支援に役立てるようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日に関わった職員の記述をお互いに読み合うなどして、状況を把握し合う事で、適切な記録・支援につなぐようにしている
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		個々の状況に応じて見直しを行い、6ヶ月又は変化のあった時には、モニタリング・アセスメントを実施し計画を見直し作成を行い説明・同意を得ている
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもの状態を把握している担当者が、会議等に対応。コロナ禍の為、外部事業所等とは、電話にてモニタリング・アセスメント等に対応している
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		地域の子育て支援関係機関や江戸川区サポートセンター、児童相談所等と連携し情報の共有を図り、支援の手助けをしている
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在は、該当児なし。 系列の保育園や他の保育園、幼稚園に通っている保護者様からの要望がある場合は、連携を図れるように心がけている
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		現在は、該当児なし。 保護者様からの情報を把握し、必要であれば対応に配慮していく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様や学校からの依頼で移行支援を実施。子どもの状況や保護者様の意向等に配慮し、情報の共有を図り、楽しく学校生活が送れるように支援していく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様や学校の依頼で移行支援を実施している。子共の状況等情報の共有を図り楽しく学校生活を送れるよう支援している 保護者様・外部事業所・幼稚園・保育園等の職員も参加して実施
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		行政からの研修案内等は職員に回覧し、研修の情報を共有し、研修を受けやすい環境を設定し、オンライン研修等に全職員が参加し、知識・技術の向上に役立てている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	コロナ過で外部との交流は見合せているが、保育所・幼稚園と療育を並行して通園できるように、利用日を調整したり配慮をしている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		地域の子育て支援会議や発達支援センターの研修等にオンライン参加し、情報共有に努めている
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々お子様の家庭や園での様子や課題などを聞き取り、情報共有して必要に応じて個別に相談の時間を設け問題解決に努めている
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		毎月第三金曜日に勉強会を開催し、参加された保護者様へのペアレントトレーニングやレスパイトケア、腰椎炎や保育園の先生方も交えた相談支援を行っている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		初回契約時に説明を行っている
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドライン等は、常時閲覧できるように提示しているが、今後は保護者様に「提供すべき支援」等のご理解を深めていただくために、文書配布等の対応も導入していきたい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		いつでも相談を受け付けており、保護者様の不安やお困り事に寄り添い、問題の解消に努めている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会は実施していないが、保護者様も一緒に参加している為、保護者様同士の交流が出来ており、連携や共有も行われている
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		いつでも、様々な心配事や不安等の相談を受け付けており、個別に聞き取りを行い、対応している
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月刊通信やラインにて随時情報を提供毎月「にっこり通信」配布や空き状況コロナ情報等ラインで発信
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		離席時等、個人書類等が他者の目に触れないように、布を掛けて保護し、取り扱いに注意している
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		聴覚障害等の場合は絵カードを使用したり、先の見通しを持ち行動するためには、1日の流れの進行カード等を使用している
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	夏のバザー開催等の交流があったが、現在は交流を自粛している
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを常設し閲覧しやすく対応し、保護者様への周知を図り、ご理解頂けるように改善努力していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		現在はコロナの状況下で、出勤を避けて実施。平常時により参加が偏るため万遍なく参加できるように実施日を再検討していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前聞き取りを実施して把握している。保護者同時利用の環境のもと子どもの体調管理を行っている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	食事の提供は無い。水分の持ち込み以外は、提供していない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット、事故報告はすぐに作成し、再発防止に向けて職員全員で情報の共有を図っている
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		行政からの研修案内や、内部研修等に参加し、実施研修を通して、職員の知識の定着を図り、実務の向上に役立てている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束・虐待等は、一切 無い

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。